

少額から始めてみても



②4 新しく生まれ変わるNISA

富山県金融広報委員会
金融広報アドバイザー

猿田 淳子

最近「貯蓄から投資へ」「資産所得倍増プラン」など投資に注目が集まっていますが、中でも税制優遇のあるNISAは来年から大きく生まれ変わります。今回はそもそもNISAって何?新しいNISAはどこがどう変わるの?といった疑問にお答えします。

Q そもそもNISAって何?

A 通常、株や投資信託などを運用した利益(具体的には利息と配当、売った時のもつけ)には、所得税と住民税合わせて約20%の税金がかかります。NISAは、これらの税金が非課税になる特別な口座です。

現在、つみたてNISA、一般NISA、ジュニアNISA(今年で廃止)の3種類がありのうち、つみたてNISAは、安全性の高い投資信託を年間40万円まで購入でき、非課税期間は最大20年間。購入時の手数料がゼロで、運用時の手数料も低く抑えられるのが特徴です。一般NISAは、株式や投資信託を年間120万円まで購入でき、非課税期間は最大

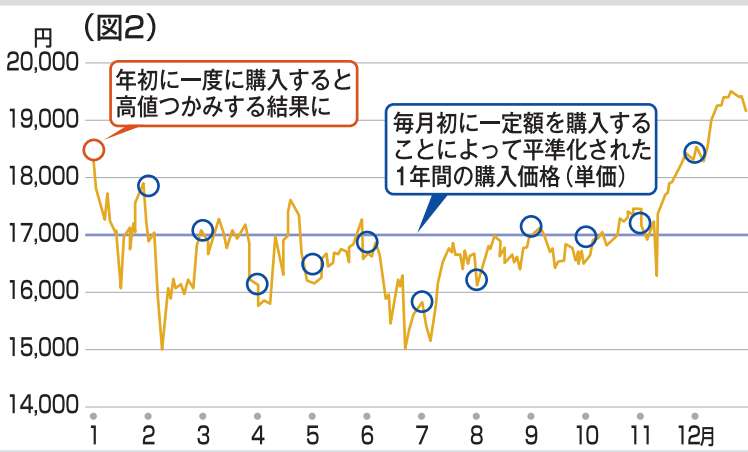
5年間となっています(図1)。

Q つみたてNISAは、若者に人気だとか?

A 金融庁によると2021年末から22年末では140%増で、20~40代が約8割を占めています。投資は「長期・積立・分散」が基本です。積立投資の良いところは、図2

現行のNISA制度 ~2023年 (図1)

	つみたてNISA <small>いずれかを選択</small>	一般NISA
対象者	18歳以上の居住者等	
年間投資上限額	40万円	120万円
非課税期間	20年間	5年間
投資枠上限	最大800万円	最大600万円
投資可能期間	2023年末で買い付け終了	
投資対象商品	積立・分散投資に適した一定の公募等株式投資信託	上場株式・公募等株式投資信託など
手数料	口座管理手数料は無料、信託報酬も安価のものが多い	金融機関による



の通り、毎月定期的に一定額を購入することによって、購入価格が平準化されて、高値つかみを回避できる点です。またそれを複利で長い期間運用することによって、利息が利息を生むので、投資の効果が加速します。さらに投資先を国内、先進国、新興国のように分散させることで、リスクが軽減されるのです。

Q 来年からNISAが大きく変わるところですが、内容を教えてください。

A 改正点①は、つみたてNISAと一般NISAの併用が可能になるとい点です。現在は、どちらか一方しか選べませんが、新NISAでは「つみたて投資枠」と「成長投資枠」に名称を変更し、併用できるようになります。改正点②は、年間投資上限額を引き上げです。「つみたて投資枠」では年120万円、「成長投資枠」

つみたてNISAの対象商品は、この投資の基本に適したものに限定されています。

では240万円、二つ併用すると360万円も非課税で運用できるようになります。改正点③は非課税期間がなくなり、無期限になります。

Q NISAを始めるのは、来年まで待った方がいいの?

A 現在のNISA口座は、新NISAの外枠という(

となので、非課税枠をより多く活用できる今年から始める方がいいでしょう。

いくらから始めればいいのか、金額のイメージができない方は、金融庁のホームページにある「資産運用シミュレーション」がおすすめです。三つの数字(毎月の積立額、年利、積立期間)を入れるだけで、将来いくらになるのかが瞬時に分かります。これはグラフで見ることができ、金額のイメージがしやすくなると思います。生活とのバランスをシミュレーションしながら、無理のない少額から、始めてみてはいかがでしょうか。

新NISA 2024年以降 (図3)

	つみたて投資枠	併用可	成長投資枠
年間投資上限額	120万円		240万円
非課税期間	制限なし(無期限化)		
非課税保有限度額(総枠)	1,800万円 ※簿価残高方式で管理(枠の再利用が可能)		1,200万円(内数)
口座開設可能期間	制限なし(恒久化)		
投資対象商品	積立・分散投資に適した一定の公募等株式投資信託 ※現行のつみたてNISAと同様		上場株式・公募株式投資信託等 ※高レバレッジ投資信託などを対象から除外
現行制度との関係	現行のNISA制度において投資した商品は、 新しい制度の外枠 で、現行制度における非課税措置を適用		

(税理士)